

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 23 年度

事業所番号	2774600551		
法人名	医療法人 千輝会		
事業所名	グループホーム神田イン国分		
所在地	大阪府柏原市片山町1-24		
自己評価作成日	平成 23年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 23年 5月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774600551&amp;SCD=320">http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774600551&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 4月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員はホームの理念に沿ってケアを行っています。住み慣れた地域で、買い物に行き、お友達や家族様などいつでも立ち寄っていかれる環境作りができています。特に入居者同士の助け合いや井戸端会議は1日中続き、夕方になるとお互いが誘いあって、居室でも楽しそうに語り合っておられる姿がよく見受けられます。毎年納涼祭では地域の住民の方々がボランティアで河内音頭や青年団からは祭りの太鼓で大いに盛り上げて下さいます。入居者と一緒に行く出店やバザーには多くの住民の方が参加されます。地域住民の方々に向けて認知症を理解して頂くための勉強会も柏原市の協力を得て毎年2回開催し今年は8回目を迎えます。おやつも手作りを心がけ、入居者と一緒につったり、季節が感じられるような入浴や行事などにも職員と入居者とで作り上げています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元の医療法人が母体となって設立し、運営しているグループホームです。ホームは駅に近く、周辺には桜並木に囲まれた小川が流れ小鳥がさえずるなど環境に恵まれています。利用者は落ち着いて生活しておられ、利用者同士が仲良く助け合う姿がほほえましく感じられます。運営推進会議は定期的開催され、議題によっては消防署や警察、認知症専門病院等の参加を得て討議を深め、ホーム運営に活かしています。防災対策に力を入れており、最近ではスプリンクラーや火災通報装置を設置して、より安全な環境作りを進めています。職員は業務改善委員会を設置して利用者のサービス向上に努めています。管理者は職員の育成に力を入れ、職員の定着率を高め、安定したサービス提供を行っています。医療連携システムを整えており、利用者も職員も安心して過ごすことができる施設です。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事が出来る様に、私たちは温かく支援します」の理念を基本に管理者と職員は地域の中で生き生き過ごしていただけるように支援しています	運営理念では「共に生活される方々のこれまでの人生を尊重し、落ち着いた雰囲気の中で自分らしく暮らす事が出来る様に、私たちは温かく支援します」としており、利用者が地域の中で楽しみを感じながら、自分らしく豊かな生活が送れるように支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の方々は地域の方なので、ご近所の方やお友達が訪ねて来られやすいように玄関には鍵をかけず、自由に出入りが出来お花や野菜をもってきて下さる方もいます。近くの神社を気候のいい日は入居者と一緒に掃除に出かけたりもします。保育所の園児の訪問や中学校の体験学習、入居者の作った雑巾を中学校へ寄付したりと地域での交流を大切にしています	利用者は自治会行事に参加したり、ホーム納涼際に参加された近隣の人々と交流したり、老人会や地域ボランティアの協力を得るなど、地域での暮らしに馴染んでいます。また、地域の保育園児の訪問を受けたり、中学生の体験学習に協力したり、近所から花や野菜をいただいたりして、幅広い年齢層とのふれあいを楽しんでいます。近くの神社の掃除をしたり、学校に雑巾を寄付したりするなど地域貢献もしています。管理者は地域の「認知症家族介護の会」に参画して、家族の悩みを聞いたり相談を受けたりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	毎年2回地域の人や福祉関係の方々に向けて認知症の人を理解して頂くための勉強会を柏原市の協力も得て行っています。又認知症家族介護の会では地域包括支援センターと協力しながら、家族様の相談にも乗っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、包括職員、民生委員、入居者の家族、その時々々の議題にそって医療関係、地域で関わりのある方々に参加して頂きホームでの取り組みや入居者の様子を報告し意見をいただき、サービスの向上に活かしています	運営推進会議は2カ月に1回の定期開催をしています。利用者・家族を始め民生委員、地域包括支援センター職員、市職員がメンバーとなっています。議題では入居者状況、新入職員採用、感染症対策、地域勉強会、職員研修会、消防避難訓練、AED（自動体外式除細動器）設置等について討議しています。議題によってはメンバー以外の出席者を要請して討議を深め、ホーム運営に活かしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p><b>○市町村との連携</b> 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>特に勉強会では協力を得て地域自治会に回覧をして頂き多数の地域住民の方の参加があります。推進会議での貴重な意見交換やグループホームの職員間の交流にも力を入れて頂いています</p>	<p>市担当者との協力関係は密接です。管理者及び職員は、市内のグループホーム管理者会議や職員交流会に積極的に参加し、市担当者へその都度意見を反映しています。また、地域の人々を対象にした「認知症」勉強会について、自治会への協力要請や進め方を相談しています。外部評価結果の報告をしたり、困難事例等の課題があれば相談したりしています。</p>	
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>ホーム開設以来玄関には鍵をかけず、心身共に拘束をしないケアを行っています。特に禁止するような言葉や行動をさえぎらないように入居者に寄り添ったケアを行っています。</p>	<p>ホーム内に「身体拘束ゼロ宣言」を明示しています。介護サービスに関する誓約書では利用者の権利について「暴力や虐待及び身体的精神的拘束を受けない」ことを明確にしています。職員は方針を理解して、マニュアルを基に拘束の無いケアを実践しています。日中は玄関のドアや門扉は常に開いており、エレベーターの利用も自由です。職員は利用者の気持ちを理解して、外出希望がある場合には常に同伴しサポートしています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修に職員は参加を行い、内部研修として全職員に周知している。今年からは虐待防止委員会を作って定期的に話し合いを持つようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その人らしい生活をして頂く為の自立支援を学び常に心掛け、成年後見制度についても学習したり、相談に乗ったりしています。成年後見人を立てておられる方も入居されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時、契約書や重要事項説明書を説明するとき詳しく説明を行い理解・納得をして頂いて署名印鑑を得ています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者や家族が管理者や職員に意見や要望を気楽に伝えられるように、事あるごとに声かけを行い推進会議の参加や市の相談窓口、介護相談員などに意見や苦情を表すことができるように繰り返し伝えています	ホームでは、利用者や家族が要望・意見を出しやすくする雰囲気作りをしています。また、市から派遣される介護相談員の来訪日を家族にも紹介しています。運営推進会議では家族等から積極的な意見や要望が出されるようになり、ホームでは早速運営に活かしています。ホーム内に意見箱を設置しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員が毎月の全体会議で、お互いの意見を出し合ってより良いケアが提供できるように話し合っている。5の委員会に職員は参加して委員会で決まった事柄も全職員で共有し反映させている（行事委員会・生活向上委員会・環境委員会・感染予防委員会・身体拘束防止委員会）	管理者は職員の意見や改善案等を尊重し、ホーム運営に活かしています。業務改善委員会を設置し、担当者を中心に検討を進め、全職員でサービス向上に取り組んでいます。また、職員会議やミーティング等でホーム運営についての検討を行い、職員の意見や提案を活かせるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者であるドクターは各自が向上心を持って働けるように、研修や勉強会には積極的に参加を勧め努力や実績を理解し職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、機会あるごとに法人内外の研修を受ける機会を確保し、働きながら介護福祉士等の国家資格も習得するための便宜を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、地域に向けて行う認知症の勉強会や相互訪問、実習生等同業者との交流する機会も多くサービスの向上に向けての取り組みに力を注いでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、家族やケアマネから本人に関する情報を得、本人とも面談を行い安心して頂くための関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前の段階から家族やケアマネとは何度も話し合い、本人も一緒に見学して頂き、安心してサービスを受けて頂けるように信頼関係を築いています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に暮らしの状況や心身の状況を家族に、本人の気持ちと家族の要望等を書き入れて頂き、それに沿って他のサービス利用も含めサービス計画を作成し、家族に確認を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は運営理念を基本に、自立支援を念頭に置き、利用者の立場に立つケアを行い、職員は介護する立場ではなく共に生活する関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に利用者を支えるを基本に、援助しているので、常に家族の気持ちや思いを伺いながら共に本人を支える関係を築いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけの美容院や家族の命日には家族と墓参りに行かれる利用者、選挙に行ったり、お友達やご近所の方が訪ねてきたり、手紙が届いたり、出したりされておられる方が多数おられ、馴染みの関係を大切にしています</p>	<p>利用者は家族と墓参りをしたり、選挙に出かけたり、行きつけの美容院へ出かけたり、一時帰宅をしたり、さまざまな面で馴染みの生活を大切にした支援を受けています。また、利用者の友人や近所の方も訪ねて来られ、話がはずむこともあります。職員は年賀状や暑中見舞い、礼状など、慣習を活かした文通支援もしています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>当ホームの自慢の1つでもある、職員が関わり合うのではなく、自然に利用者同士が関わり合いを持ち、支え合っておられる風景が毎日みられます、とっても微笑ましい風景です</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても、家族からこれまでの関係を大切に頂く電話をいただいたり、訪問を受けたりします。又必要に応じて相談や支援に努めています</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	運営理念を基本に職員一同本人の思いを大切に、本人本位のケアを行う為に気づきシートを活用し、生活歴を詳しく知り困難な場合はセンター方式の私の姿と気持ちシートを利用し検討している	日頃から利用者の思いや意向を確認するように努めています。言葉での表現がしにくい利用者には表情や行動、しぐさを確認しながら支援し、気づきノートにも記載して職員間で共有し、支援に活かしています。努力しても十分に思いや意向が確認できない場合には家族に協力を得たり、利用者同士の助けあいにヒントを得ることもあります。	職員は「家族と共に利用者を支える」ことを基本にして利用者を支援していますが、利用者と家族の気持ちがしっくりいかなかったり、家族間の問題があり関係が疎遠になったりする場合があります。職員は利用者が家族との関係を良好に保つことで、安定した生活ができるように、支援していくことが重要と考えています。家族の立場をも理解しながら、自然な形で双方の思いを支えられるように取り組む予定です。今後は取り組みの成果が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族やケアマネから情報を得、生活歴や習慣を知る為にグループホーム協議会方式の暮らしの状況や心身の状況を詳しく伺いこれまでの生活を把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自立支援を基本に毎日の介護記録や気づきシートを通して、現状の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を作るにあたり、家族の気持ち、職員の気づきや意見を聞いて作成している。また職員間で本人のニーズを共有、毎日の介護記録とニーズの中の項目チェックを通して、モニタリングを行っている</p>	<p>利用者や家族の意向を確認し、職員の気づきノートで把握した情報を追加して介護計画書を作成しています。また、医師や看護師からの専門的なアドバイスを重視するとともに、ミーティングで話し合い、職員のアイデアを活かした支援をしています。アセスメントやモニタリングは計画書作成時や見直しの際に行っています。家族には介護計画を説明して、了承サインをもらっています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日個別の介護記録や気づいたことは気づきシートに記録を行い、1日の終わりにはその日のニーズの項目チェックを行い、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしています</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>毎日の項目チェックでその時々生まれたニーズは、特記事項に記載して見直しが柔軟に行われるように取り組み、既存のサービスに捉われないようにしています</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	気づきシートを活用して、1人ひとりの自立支援を念頭に、地域の中で自分らしく楽しみながら、豊かな生活が送れるように支援している。（地域で大切に育てられている秋祭りのだんじりや保育園児の訪問、老人会の慰問など）		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医や受診希望を確認し、適切な医療が受けられるように、希望される医療機関とは連携を密にとれるように協力を依頼し、情報の交換や受診に際し協力を行っている。	利用者が入居時にかかりつけの医師がいる場合や希望する医療機関がある場合には継続してかけられるように支援しています。希望される医療機関とは連携を密にして、情報の交換や受診に際しての支援をしています。母体法人の医師による往診を受けることもできます。また、夜間や急変時に備えて医療連携体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと医療連携をとっている。介護職員は日常の関わりの中での気づきや変化を看護師に報告を行い、密に連携を取り合っている。利用者に安心して過ごして頂く様に支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b>            利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が入退院される際は訪問看護師や主治医と連携をとり、安心して治療できるように、病院関係者とも情報交換や相談に努めています。また運営推進会議には、病院関係者の参加もあり関係作りも積極的に行っています</p>		
33	12	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b>            重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制をとって、入居時終末期のあり方、重度化した場合や看取りについて事業所で出来ること等を十分に説明を行い「看取りの指針」に同意を得、署名捺印を得ている。訪問看護師や主治医など医療関係者とも連携がとれている</p>	<p>入居時に看取り指針を説明し、家族の同意を得ています。ホームでは看取りをした経験があり、経験を活かしてさらに充実した対応に努めています。医療連携体制を取っており、終末期には家族や医師、看護師、ホーム職員が話し合い、利用者を見守りながら現状に即した柔軟な支援をしています。</p>	
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b>            利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変時や事故発生に備えて、定期的に全職員はロールプレイや救命講習、訪問看護師との勉強会などで実践力を身につけている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回消防署の協力を得て入居者と職員は、避難訓練を行っています。推進会議等を通じて地域の皆様や家族の協力をお願いしています。今年にはスプリンクラーや火災通報装置が設置されました。	消防署の協力を得て年2回の防災避難訓練を行っています。避難訓練では2階の利用者はベランダへ出て階段を下り避難する方法や玄関から避難する方法など、自室の位置や出火場所により避難口を想定して訓練を行っています。ホームには最近新たにスプリンクラーや火災通報装置が設置され、より安全な環境作りを進めています。利用者は「地震が起きたら外へ逃げる方が良い」とか「私の部屋は1階だから避難しやすい」などと話題にされることもあります。非常時に備えてホーム内に2～3日分の水や食料品等を備蓄しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念にも謳っているように、常に一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような対応がなされていないか、毎月の全体会議で確認合っている	利用者を人生の先輩として尊敬し、利用者の誇りやプライバシーを損ねないように言葉かけをするなど丁寧な対応をしています。職員採用時には個人情報保護に関する契約を交わし、プライバシーの保護については施設内研修を徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選択出来る場面や事柄を多く作っている。たとえば朝の着替えや入浴後の衣服、食事の好き嫌い、飲み物も選択できるようにしている。外出希望にも自由に出て頂いています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念でも謳っているように、自分らしく暮らして頂く様に、職員は入居者の思いを大切にしています。その日によって1日の過ごし方も様々です。編み物をする人、入浴を希望する人、外出を希望する人等その思いに沿った支援をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日、その時の気分によって、何度も洋服を着替えられたり、お化粧をされたりしておられる方もいらっしゃいます、希望があれば一緒に美容院や化粧品を買いに行ったりもします		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員や入居者は、一緒に食材のチラシを見たり献立を考えたりします。調理も一緒にして作る楽しみ、匂って唾液を促し、一緒に調理をすることで与えられるだけの生活ではなく作る喜びも感じ取っておられます、後片付けも進んでされ自分の出来ることをする雰囲気です	ホームでは朝・昼・夕食を手作りしています。利用者は職員と共に献立を考え、買物をすることから始めます。下ごしらえ、盛り付けや配膳、片付けをするなど、利用者の得意な場面で活躍してもらっています。また、手作りおやつも楽しみながら作って味わいます。ささやかな菜園で育てた野菜や近所にいただいた野菜が食卓を飾ることもあります。バリアフリーで足湯ができるように工夫されたレストラン等に出かけ、外食をすることも楽しみの一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事摂取量を毎日毎回記入し栄養バランスや水分量も確保できるように支援している。特記事項にその時々気づき点等も記載してニーズの把握に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人ひとりの口腔状態を把握し、口腔ケアを行っている。必要に応じて歯科衛生士に来てもらい職員との連携も取れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状態を把握するために正確に記録を取り、1人ひとり排泄パターンを知り、失禁を防ぐように早めのさり気ない誘導を行うなど、布パン対応で排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を考慮し、さりげなく声かけをするなどトイレ誘導を行い、自立を目標にした排泄支援をしています。また、できるだけオムツ類は使わず布パンツで過ごされるようにしています。ほぼ自立している利用者や、ポータブルトイレを使用している利用者にも心を配り、清潔に過ごされるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然排便に向け水分摂取を促し、排泄時腹圧をかける、運動をする等個々に応じた予防を心がけている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日健康チェックを行った際、本人に入浴を促し、曜日や時間を決めずに本人の希望する湯加減や時にはゆず湯、菖蒲湯等季節感を味わえて楽しく入浴をして頂くような支援をしています	利用者一人ひとりが毎日入浴できるように入浴支援をしています。入浴を好まれない場合でも時間を見て声かけをしたりして、週2回程度は入浴をされるように配慮しています。ゆず湯や菖蒲湯、沐浴剤を使った温泉湯など季節に合わせたお風呂を準備して楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々状況に応じて、和室に布団を敷いたり、居室のベットを布団に変えたりして安心して休息したり、眠れるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に職員は利用者の症状の変化を感じ取り、医師、訪問看護師、薬剤師と連携を取り合い、薬についてのアドバイスを受け服薬の支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との日々の会話や家族の聞き取りからその方の生活歴を知り、気づきシートに記入、嗜好品、趣味、興味のあることなどを事あるごとに活かせるように支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の会話の中で情報を集め、家族に本人の思いを話してみ、家族が叶えられることは家族が、職員ができることは職員が本人の希望にそえるように努めている。特に入居直後の自宅に帰りたい気持ちにも一緒に自宅まで外出支援を行います。買い物や散歩近くの神社の掃除などは、入居者と日常的に出かけ、普段あまりいけないところには行事委員会で検討して梅、桜、紅葉、花火や外食、足湯などの外出支援をしています	ホームの門を出て桜並木のある川に添って散歩をしたり、近くの神社へ出かけて拝観したり掃除をしたり、買物に出かけるなど、日常的な外出支援をしています。普段あまりいけないところには行事委員会で検討して年間を通じた取り組みをしています。また、利用者の帰宅願望がある場合には、家族と調整して何度でも納得されるまで一時帰宅をしてもらい、落ち着かれるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物を希望されれば付き添って支払いもして頂き、金銭管理のできない方は、職員が確認を行いつつ支払えるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	日常的に電話の使用の支援をしています。手紙は勿論暑中見舞いや年賀状などは普段手紙を書かない方にさりげなく声かけを行い早めに出すように支援している		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間には家庭で使われているものがあり、家庭的な雰囲気の中過ごしておられる。カーテンやエアコン、気候のいい日は窓を大きくあけ自然を取り入れ自分たちの作った詩やちぎり絵、書道、普段過ごしている様子が映っている写真などを掲示し、庭には季節の花や野菜を栽培して楽しんでます	玄関や廊下は家庭的で最近の利用者の写真を展示したり、手作りの飾り付けをしたり、活け花や植木鉢で季節感を出したりしています。居間兼食堂からは目の前に広がる桜並木と川、川に架かる橋が一望でき、道行く隣人と挨拶することもできます。畳の部屋があり、利用者は横になったり、くつろいだり、多目的に活用しています。2階には外付けのエレベーターがあり、それぞれのユニット玄関が独立しており、防災や感染症対策など効果的に活用できます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや玄関、庭などにソファや椅子等を置いています。気の合った利用者同士思い思いに過ごしたり、お互いに居室を訪問して楽しそうに話しておられる様子など数多く見受けられます		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人や家族に相談して自宅で使っていたものや馴染みのものを持って来ていただくように話し合い、鏡台や時計、タンス等を置いておられ特に写真などは見て落ち着かれることがあります	居室には手作りの飾り表札があり、利用者に分かりやすいようにしています。利用者はそれぞれ馴染みの家具を置き、ぬいぐるみや家族写真、仏壇、手作り作品、絵画などを飾って居心地良く過ごせるような部屋にしています。布団に慣れた利用者やベッドでは危険が予測される利用者には、床に布団を敷いて対応するなど、利用者の生活習慣や安全性に配慮した居室設定をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が安全に自立した生活ができるように、台所は自由に入出りができ調理を一緒にしたり、ほうきを目につくところに置いてあるので、気がむけばほうきで掃いておられたりしておられる。ホーム内は手すりをつけ段差をなくすなど安全に過ごせるようにしています		